

〔有用遺伝資源の評価・利用〕  
ネギ秋冬どり栽培における有望品種

木下沙也佳・野口 貴・海保富士男・大槻優華  
(園芸技術科)

---

【要 約】草丈がコンパクトで葉鞘長が長い「MSI-1242」、葉鞘長の揃いがよく1本あたりの調整重が優れる「No. 1339」は収量も高く、有望である。

---

【目 的】

都内のネギは主に直売用に出荷されており、秋冬どりの作型が主流である。近年は高温の影響により生育不良が発生するため、より優れた品種の選定が望まれている。そこで、秋冬どり栽培で17品種の特性を明らかにし、有望品種選定の資料とする。

【方 法】

2023年3月6日に「秋の宝山」以下17品種をチェーンポットCP303に播種し、ハウス内で育苗した。出芽後、ポットあたり苗立ち数を交互に2本、3本になるように間引きした。定植は5月2日にひっぱりくんで行い、畝間110cm、株間5cm/ポット(44,868株/10a)の1区4.5m×1畝(4.95m<sup>2</sup>)の2反復で栽培した。基肥はN-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oを成分量で6-20-6kg/10aとした。その後、6月16日に少量培土し、7月25日および8月25日、9月29日に追肥および培土、10月13日に止め土とした。追肥量は各回ともN-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oを成分量で5-0-5kg/10aとした。収穫調査は、11月21日(定植203日後)に行った。

【成果の概要】

1. 気象条件の特徴：6月下旬までは平年並みの気温だったが、7月～9月は降水量が非常に少なく、日照時間が長く、気温の高い日が続いた(データ略)。10月以降は気温は平年並みか高く推移した。
2. 草丈が大きい品種は「龍のぼり、龍まさり、No. 1225, 群翠」で「No. 1225, 群翠」は葉鞘長も45cm以上と長かった(表1)。草丈がコンパクトで葉鞘長が長いのは「MSI-1242, 一翠太」であった。葉鞘長の揃いがよいのは「MKS-N40, No. 1339」であった。分岐部長が短いのは「源翠」であった。1本あたりの調整重は「No. 1339」が最も優れ、「白翠, No. 1225」が続いた。「No. 1225, 一翠太」では収穫物の1割以上に分けつがみられた。
3. 規格別の収穫本数をみると、「MKS-N40」は「MSI-1242, 群翠」と同様にLサイズが中心で揃っていた(図1)。一方、3Lが最も多いのは「No. 1339」、3Lや2Lといったサイズが多い品種は「源翠, 龍まさり」であった。
4. 収量が最も多いのは「MSI-1242」で、「夏扇4号, 吉宗, No. 1339」は10aあたり収量が7t以上と高かった(図2)。
5. 葉折れが少なく立性な品種は「MKS-N40」であった(表2)。葉先枯れが少ないのは「一翠太, No. 1339」であった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

各品種の在圃性、抽だい特性の確認を行う。

表1 秋冬ネギの収量および生育

品種 (種苗会社 <sup>a</sup> )	草丈 <sup>b</sup>		葉鞘長 <sup>c</sup>		分岐部長 <sup>d</sup> (cm)	葉鞘径		葉鞘硬さ <sup>e</sup>		調整重 <sup>f</sup>		全葉数		分けつ割合 <sup>g</sup> (%)
	(cm)	C.V.	(cm)	C.V.		(mm)	C.V.	(kg)	C.V.	(g/本)	C.V.	(枚)	C.V.	
秋の宝山 (ヴ)	100	10.4	41.9	7.7	5.3	19.8	19	0.64	6	162	31	7.5	16	0.0
一翠太 (カ)	104	9.9	43.5	8.9	5.6	21.1	19	0.60	11	165	30	5.5	20	12.8
ウエキ交配 龍のぼり (横)	116	7.1	41.3	6.4	6.6	22.5	16	0.63	6	178	24	7.6	18	0.0
ウエキ交配 龍まさり (横)	115	8.0	42.0	7.2	7.0	22.0	15	0.58	10	158	28	6.9	16	1.0
群翠 (カ)	114	7.3	45.0	7.6	5.6	19.7	19	0.67	5	162	31	7.2	20	0.0
源翠 (カ)	102	7.6	42.5	6.7	3.0	23.1	15	0.64	6	182	29	7.0	13	0.0
秀明 (武)	108	11.1	40.7	9.3	5.3	20.7	20	0.61	11	160	36	6.5	21	0.0
ダイヤ交配 森のめざめ (ト)	82	14.0	33.0	9.8	4.2	17.3	32	0.63	8	125	61	4.8	25	0.0
夏扇4号 (サ)	109	8.9	40.4	8.2	8.7	20.5	23	0.51	12	180	31	8.3	13	0.0
白翠 (カ)	110	9.6	40.8	9.4	7.0	22.1	19	0.63	7	197	31	7.7	17	8.2
名月一文字 (タ)	92	5.5	39.5	6.4	3.9	20.9	24	0.64	8	178	36	7.4	19	5.2
吉宗 (武)	97	8.5	39.4	9.7	4.7	21.3	18	0.63	8	171	33	6.8	18	0.0
MKS-N40 (ヴ)	108	5.2	42.0	6.0	5.6	19.9	17	0.59	8	152	27	6.9	15	0.0
MKS-N43 (ヴ)	105	10.0	42.5	7.0	5.6	23.9	25	0.50	8	168	33	7.1	16	1.9
MSI-1242 (武)	102	6.6	44.5	8.0	6.0	21.3	16	0.60	10	181	28	7.3	22	2.5
No. 1225 (タ)	115	5.6	46.5	6.8	8.0	22.2	17	0.65	6	194	29	7.2	14	19.4
No. 1339 (タ)	101	5.4	38.9	6.1	5.9	24.0	18	0.57	9	229	29	7.1	14	2.2

a) ヴ：ヴィルモランみかど (株)，カ：カネコ種苗 (株) 東京支店，横：横浜植木 (株)，武：(株) 武蔵野種苗園，ト：トキタ種苗 (株)，サ：(株) サカタのタネ，タ：タキイ種苗 (株) 関東支店

b) 盤茎部～葉先までの長さ c) 盤茎部～分岐部上部までの長さ d) 分岐部上部～分岐部下部までの長さ e) 葉鞘中心部を測定 f) 緑葉3～4枚に調整 g) 収穫物のうち、1本以上分けつがみられた個体数の割合

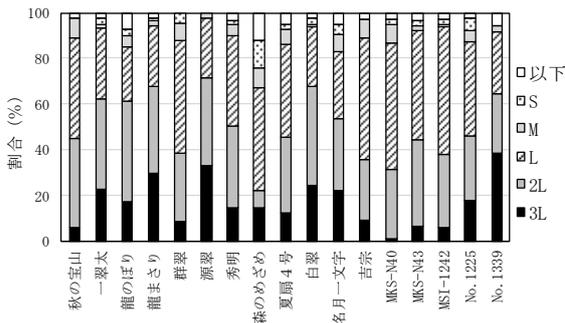


図1 秋冬ネギの規格別収穫本数の割合  
注) 規格は葉鞘 (軟白部) の中心径を

3L: 25mm以上, 2L: 21mm以上25mm未満, L: 16mm以上21mm未満, M: 12mm以上16mm未満, S: 10mm以上12mm未満, 以下: 10mm未満とした。

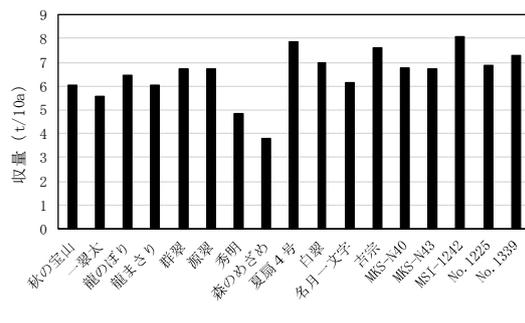


図2 秋冬ネギの収量

注) 調整重×調査面積 (9.9m<sup>2</sup>) あたりの収穫本数から算出

表2 秋冬ネギの目視による特性調査結果

品種	葉折れ (多～少)	葉先枯 れ (多～少)	葉先の曲が り (多～少)	ろう質 (多～少)	緑色の 濃淡 (濃～淡)	葉の開帳性 (開～立)	分岐部のし まり (縮～緩)	葉鞘中央部 のしまり (縮～緩)	根量 (多～少)
秋の宝山	やや少	やや多	中	中	中	やや立	やや縮	やや縮	やや多
一翠太	多	少	やや少	やや少	やや淡	やや開	やや緩	やや緩	少
ウエキ交配 龍のぼり	多	多	やや少	やや多	中	開	縮	縮	多
ウエキ交配 龍まさり	多	やや少	やや少	中	淡	やや開	中	縮	少
群翠	やや多	中	やや少	やや少	やや淡	中	縮	縮	多
源翠	多	やや多	やや多	やや多	中	開	やや縮	やや緩	やや多
秀明	多	やや多	多	やや少	やや淡	やや開	やや縮	やや縮	中
ダイヤ交配 森のめざめ	やや少	中	中	やや少	やや淡	やや立	縮	縮	中
夏扇4号	中	やや少	中	やや多	中	やや開	中	縮	やや多
白翠	やや多	やや少	少	やや少	中	中	縮	縮	やや多
名月一文字	中	やや多	やや少	多	やや濃	中	やや緩	やや緩	多
吉宗	中	やや多	中	やや少	中	やや開	中	中	やや多
MKS-N40	少	中	少	やや少	やや淡	やや立	やや緩	やや緩	やや少
MKS-N43	やや少	やや少	やや少	やや多	中	やや立	やや縮	縮	中
MSI-1242	やや少	やや少	少	中	やや淡	やや立	やや緩	やや緩	少
No. 1225	中	やや少	中	やや多	中	やや立	縮	中	中
No. 1339	やや多	少	やや少	多	やや濃	中	やや縮	縮	中

注) 評価は供試品種間においての相対的評価とした。